

クラス番号	349	担当教員名	藤井 渉
テーマ	障害者福祉を考えよう		
著書・論文 研究課題等	研究課題：「戦争と障害者」「障害とは」「障害者福祉の実践課題とは」 著書：『ソーシャルワーカーのための反『優生学講座』 ―「役立たず」の歴史に抗う福祉実践』（現代書館、2022年）、『障害とは何か ―戦力ならざる者の戦争と福祉』（法律文化社、2017年）など。		

ゼミナール概要

キーワード：障害者福祉、障害とは、福祉実践、支援、歴史、戦争

目 的

障害者福祉現場にある一つ一つの問題を、できるだけ幅広い視野から理解し、考えられるようになること、そして、現場の問題について主体的に実践できるようになることを目標に学習を進めていきます。

授業計画

基本的には次の3つを中心に演習を通して学びます。

①3回生前期では、ゼミのみなさんで学びたいテーマを決め、学習を進めます。学習を進めるために大事なのが、図書館で文献を調べることであり、実際に現場に赴いて考えてみるというフィールドワークです。ゼミではいろんな文献を紹介しつつ、できるだけフィールドに訪問したり話を聞いたりする機会を準備したいと思います。

②3回生後期では、その学習を踏まえ、障害者福祉のテーマを自分で決めます。自分でテーマを決めるのは意外と難しいことです。テーマを決めるためには、自分史にも向き合いながら、意見を交わし、深めていくことで自分なりの「問い」を探すこととなります。そのための方法、あるいはその整理を共同で進めていきます。年度終わりには、新型コロナの状況によりませんが、日帰り、または宿泊をとまなう研究報告会を予定しています。

③4回生では、自身で立てた「問い」について、なぜそうなっているのかを考え、卒論にまとめていきます。

そ の 他

ゼミでは毎月「藤井ゼミ通信」を発行しています。そこに掲載するリレーエッセーを全員に書いてもらいます（右図）。また、ゼミではできるだけ自由な論議を重視します。自身の意見を表明することは実は自身の学習になることで、それに共感してくれるゼミ生との出逢いはとても嬉しいことだと思います。なお、私がかかわる施設・事業所ではあるプロジェクトの立ち上げを進めています。それにゼミ生が参画できる機会をいま準備しています。

大阪出身で、ラーメンやBUMP OF CHICKEN、ユニバが大好きです。愛知県の本学に赴任してまだ年月も浅いのですが、少しずつ愛知県下の様子も理解し、いくつかおもしろい現場も発見してきました。ぜひ一緒に探索できればと思います。



担当教員からのメッセージ



ゼミでは自由な論議を重視しています。自由な論議でぜひ大事にしてほしいのが、人の「いたみ」にできるだけ寄り添ってほしいことです。ここでいう「いたみ」とは、傷つけられたという「痛み」だけでなく、「悼み」という意味を含みます。つまり、過去に積み重ねられてきた人たちへの悼みであり、ぜひそれに何かしらの敬意を払ってほしいということです。実は、そのために学習しなければならないのが歴史であり、その意義や魅力についてゼミ全般を通して知ってもらえたらなと思っています。